



第 131 号

東稻ニュース

早稲田大学校友会東久留米稲門会

2023 年 9 月 10 日発行

発行責任者 山口 謙二

編集責任者 片平 るみ

E-mail: oyamasahiro1130@gmail.com

<http://higashikurume-toumonkai.com/>

事務局 大矢 真弘 Tel 042-475-8532

秋の懇親会のご案内

記録的猛暑と大雨に日本列島が見舞われた今夏、会員並びに校友の皆様はお元気にお過ごしでしょうか。日頃、稲門会の諸活動をご支援下さいまして誠にありがとうございます。

さて、本年も皆様に秋の懇親会のご案内を差し上げる時期になりました。懇親会は総会・新年会と並ぶ当会のメイン行事の一つです。今年の催し物として会員のご友人の講談を準備致しました。秋のひと時を皆様と楽しい場にしたいと考えております。

詳細は別添のチラシをご覧ください。会員はもとより校友の皆様におかれましては気楽にお立ち寄り頂ければと思います。会員は様々な部会に参加致しておりますので、各部会の活動状況などお尋ね頂ければと存じます。

講談予定者→

山口 謙二 記



中村 紳幸



会の告知版

【部会等の予定】

- | | | |
|-----------------|-------------------|----------|
| ・ 09 月 19 日 (火) | ウォーキング部会「向島百花園」 | |
| ・ 09 月 28 日 (木) | 映画鑑賞会「ウエストサイド物語」 | 成美教育文化会館 |
| ・ 10 月 01 日 (日) | 役員会 | 生涯学習センター |
| ・ 10 月 12 日 (木) | 稲門会ゴルフコンペ | 熊谷 G C |
| ・ 10 月 15 日 (日) | 秋の懇親会 | 成美教育文化会館 |
| ・ 10 月 24 日 (火) | ウォーキング部会「子の権現・竹寺」 | |
| ・ 11 月 09 日 (木) | 三田会との懇親ゴルフコンペ | 飯能 G C C |
| ・ 11 月 30 日 (木) | 映画鑑賞会「心の旅路」 | 成美教育文化会館 |

<定例活動一覧>

部 会	9 月				10 月			
	日	曜	時間	場所	日	曜	時間	場所
女性サークル	14	木	10:00-12:00	中央町地区センター	5	木	10:00-12:00	中央町地区センター
書 道	10	日	12:40-15:40	生涯学習センター	8	日	12:40-15:40	生涯学習センター

俳句	17	日	10:00	生涯学習センター	22	日	10:00	生涯学習センター
囲碁	24	日	13:00	成美教育文化会館	22	日	13:00	成美教育文化会館
太極拳	2	土	10:00-12:00	成美教育文化会館	7	土	10:00-12:00	成美教育文化会館
	9	土	10:00-12:00	成美教育文化会館	14	土	10:00-12:00	成美教育文化会館
	30	土	10:00-12:00	成美教育文化会館	21	土	10:00-12:00	成美教育文化会館
ソフトボール	4	月	11:00-13:00	南町運動広場	16	月	11:00-13:00	南町運動広場
	25	月	11:00-13:00	南町運動広場	30	月	11:00-13:00	南町運動広場
バドミントン	毎週金		10:50～	東久留米スポーツセンター	毎週金		10:50～	東久留米スポーツセンター
ボッチャ	9	土	13:00-15:00	東久留米スポーツセンター	7	土	13:00-15:00	東久留米スポーツセンター
	22	金	13:40-15:50	東久留米スポーツセンター	23	月	13:40-15:50	東久留米スポーツセンター

【大学・校友会関係】

- ・ 09 月 28 日（木） 稲門祭実行委員会 早稲田大学 片平 平山努
- ・ 09 月 30 日（土） 秋季幹事長・事務局長会議、 早稲田大学 大矢 小山田 有賀
秋季代議員会
- ・ 10 月 22 日（日） 早大稲門祭 早稲田大学 片平 平山努
- ・ 10 月 29 日（日） 小平稲門会 ルネ小平 山口
- ・ 11 月 05 日（日） 23 区支部・三多摩支部合同会長懇話会 後楽園飯店 山口
- ・ 11 月 18 日（土） 東村山稲門会 サンプルネ コンベンションホール

会の報告

◎早稲田大学 2023 年商議員会報告

早稲田大学の 2023 年商議員会が 7 月 8 日（土）14 時より大隈講堂で開催された。亀井淳商議員会長の挨拶の後、議事に入り商議員会 2022 年度収支決算と 2023 年度予算の説明があり承認され、大学の財務状況の報告があった。

学事報告として田中愛治総長より「2050 年を視野に入れた早稲田の改革-国際卓越研究大学を目指して」の講演があり、今年度応募した卓越研究大学については残念な結果に終わったが、2024 年か 2025 年に再度挑戦する。

再挑戦にあたり、文理融合の教育・研究をさらに進め、世界に貢献する学生を育て、正解のない問題を解く力を育んでいきたい等の話があった。

最後に早稲田大学への応援基金への支援のお願いがあり、閉会した。 大矢 真弘 記

◎東京三多摩支部会長会（総会）報告

7 月 9 日（日）国分寺リオンホールで掲題会議が開催されましたので概要報告致します。本年度の主幹は国分寺・小金井の両稲門会で、来賓と 26 稲門会からの出席者合せて 55 名が出席しました。議事は昨年度・本年度の事業報告並びに決算・予算で滞りなく進行。尚、「サロン・ド・三多摩」の稲門祭への出店は、アルコール販売禁止の為見合わせです。特別講演は早大フェローの藪野健氏の「記憶の中の早稲田」。早大は東京の大学の中で建学以来一度場所が変わっていない稀有な大学だそうです。藪野さんの絵画は早稲田学報によく掲載されています。 山口 謙二 記

◎役員会報告

＜議事録概要＞

山口会長から開会の挨拶の後、以下の事項について報告や意見交換が行われた。

1. 秋の懇親会

(1) 「成美教育文化会館」3階大研修室 (2) 実施日程

10月15日(日) 14:00~16:00

(3) 案内対象先

会員並びに一般校友・・・20代~40代の校友(288名)を招待する。

(4) 実行委員 担当：有賀副会長、吉田副会長、山岡 + 執行部

(5) 実行委員打合せ会、余興 等

① 早大校友の講談師 中村紳幸氏 <山岡氏の紹介>

② 実行委員打ち合わせ 8/22(火) 17:30

2. 会費納入状況等

(1) 未納会員等の件

8/6現在、13名の未納者。次回、東稲ニュース発送時に2回目
の督促状を出す。

3. 広報関係

(1) ホームページ

(2) 東稲ニュース・・・9/8(金) 15時より印刷、16時より袋
詰め等の作業を行う。

4. 組織強化補助金20万円の申請条件について

(1) 稲門祭記念品購入の件

167,000円(目標額14万円)

(2) 稲門祭へふるさと賞の寄付

柳久保うどん 340円 60箱を10月初旬に送ることとする。

(3) 体育関係部への寄付5万円

2023年度は「競走部」とした。

5. 今後の行事予定

(1) 今後の役員会

10/1(日)・12/3(日)・2024年2/4(日)・4/7(日)

(2) 忘年会は、12/3(日) 会場未定

(3) 新年会は、1/20(土) 14:00より成美教育会館3階大研修室・・・13:00~16:30 予約済
案内は会員並びに新会員募集のため50代~60代にも案内する。

(4) 次年度総会は、2024年4月21日(日) 成美教育会館1階ギャラリー・・・予約済
<講演会は、西東京稲門会で行われた発声方法の講演の方に出演依頼する。>

6. 映画鑑賞会

9月28日(木) 14時 「ウエストサイド物語」 成美教育会館

次回、11月30日(木)は「心の旅路」とする。

7. 30周年記念事業の件

・実施日程 2024年6月29日(土)

・会場 記念コンサート・・・生涯学習センター まろにえホール

懇親会・・・成美教育会館 グリーンホール

・実行委員会 委員長 小山田 副委員長 金子 委員 梶井、山岡 + 執行部

・事業内容等 「担当者も会員も過度な負担なく、楽しめる内容にする。」



-
- ・ 記念コンサートの件

早稲田大学交響楽団（40～50 名）と早稲田大学合唱団（40 名）が出演予定

- ・ 次回役員会について

2023 年 10 月 1 日（日）16 時より、生涯学習センターの予定

大矢 真弘 記

◎東久留米稲門会創立 30 周年記念事業の進捗状況報告

来年の東久留米稲門会の創立 30 周年にあたり、何か記念のイベントを実施しようとの機運が盛り上がり、昨年度よりその資金を積み立ててきました。いよいよ次年度が 30 周年の年度となるので、今年度第 1 回役員会において実行委員会を組織することになり、私、小山田が委員長を、金子幹事が副委員長を仰せつかりました。委員として執行部の皆様（会長、副会長、事務局長）に入っていただき、さらに自ら手を上げていただいた山岡さん、梶井さんを加えて、総勢 10 名の実行委員会となりました。

これまで 6 月 17 日、7 月 15 日、8 月 6 日と 3 回の実行委員会を開催、「30 周年にあたり記念に何をするか」から議論をはじめました。「会員全員が楽しめる」「担当者も負担にならずに楽しめる」をコンセプトとして掲げ、みんなで 30 周年を祝い楽しめるイベントを目指すことにしました。10 周年時の「グリーンクラブ」のコンサート、20 周年時の「大門中学校吹奏楽部と早稲田ニューオリンズジャズクラブ」のコンサートが念頭にあり、今回も当初より音楽イベント＋懇親会が想定されてはいました。

参考のため 6 月 25 日（日）に開催された狛江稲門会 25 周年記念「心のふるさとコンサート」を視察し、我々のイベントの具体的な内容、日程や場所の検討を開始、必要なものは予約を入れる等の作業を進めてまいりました。現在、会員の皆様にご報告できる内容は、以下の通りです。

① 30 周年記念イベントとして「早稲田大学交響楽団」＋「早稲田合唱団」のコンサートを実施

② 日程は、2024 年（令和 6 年）6 月 29 日（土）

③ 場所は、コンサート会場として生涯学習センター「マロニエホール」（収容 500 名）を予約

懇親会場として少し離れてしまいますが、同日の成美教育文化会館グリーンホールを予約といった進捗状況です。



前号でご報告した通り、6 月 25 日（日）に狛江稲門会創立 25 周年記念「心のふるさとコンサート」を視察してその素晴らしさに感動し、同様のコンサートを是非東久留米でも・・・と、その実現の可能性を委員会で検討してまいりました。狛江のコンサートで聴衆の心をつかむ見事な司会・進行役を務めたのが三多摩支部事務局長の大橋忠弘氏。プロデューサー兼ディレクターとしての役割も果たされていたようで、私共の 30 周年イベントにもご協力いただきたいと、山口会長からコンタクトを取り要請。大橋氏に快くお引き受けいただき、とんとん拍子に話が進み、①～③のところまで進捗しています。予算的には積み立てがあるとはいえ、相当の経費が予想されますが、狛江に負けない内容とするべく繰越金の範囲内で実施していく所存です。

今後、コンサートの曲目の内容等を詰めていく作業を行うとともに、会員だけでなく東久留米市民、特に市内の中学・高校生の吹奏楽部・合唱部の生徒さんに、「街にやってきたオーケストラ」として、是非このコンサートを聴いていただき、早稲田大学を目指すきっかけとなるよう、チケットの配布方法を検討したいと考えております。

30周年記念事業実行委員会 小山田 朋樹 記

部会だより

【活動報告】

<バドミントン部会>

6月29日（木）～30日（金）の1泊2日で、バドミントン部会とボッチャ部会の合同合宿をグリーンヒル八ヶ岳という新宿区保養施設（山梨県北杜市）で開催しました。バドミントン部からは11名、ボッチャ部からは9名が参加、5名が両部に重なっているため、総勢は15名です。

この保養施設での合宿は、2019年6月に続いて2回目。今回はホテル本館ではなく、6人用コテージを2棟と4人用コテージを2棟借りました。

初日は12時ごろ高速バス組と自家用車組に別れて現地に集合、ホテルのレストランで昼食後はアリーナで全員参加のボッチャ、15時からバドミントンのダブルス試合を開始しました。終了後は温泉に入って夕食会、そのあとはコテージに集まって今後の東稲会に関する討議？（半分飲み会）となりました。

翌朝は、朝食後2日目のダブルス試合、1日目と併せ合計28試合をコート2面で実施、ペア相手と対戦相手をランダムに組み替えながら、個々人の得点を合計して順位を決めました。結果は実力通り、有賀氏、渡辺氏、森野氏が上位3人でした。

この保養施設には、ソフトボールが可能な多目的グラウンドやテニスコートもあり、コテージには冷蔵庫や電子レンジなどの調理設備が完備されています。

坂井 淑晃 記



<ボッチャ部会>

”ボッチャ部第1回強化合宿開催”

本年4月に東久留米稲門会の部会として承認されたボッチャ部は、強化合宿を山梨県北杜市のグリーンヒル八ヶ岳にて挙行了しました。参加者は、10名でした。

5月の ”第1回くるめCUP” を制覇した我が部はその勢いによってさらなる前進をめざし強化合宿を行ったのです。バドミントン部との合同合宿でした。八ヶ岳連峰の麓で清涼

な外気に抱かれフレッシュな気持ちで参加者全員が研鑽に励むことができました。

初日はバドミントン部員も全員ボッチャを行いました。もちろんバド部員の中には、初めてボッチャボールに触れるひとも多くいました。

全員大会では、初心者グループと経験者グループに分かれ、それぞれ総当たりのリーグ戦を行い、激しい戦いを展開致しました。スピンボール、はじくボール、密着させるボール、攻撃、防御など戦略を練りながらの激しく楽しい戦いでした。

又初心者はボールの投法、攻略法などを習得しながら楽しめました。

2日目は、ボッチャ専門部員による研究会を中心として技術の向上に邁進したのです。2日間、寝食をともにし、技術研修、実践形式でのゲームを楽しみ、夜は戦略の研究、懇親（こちらがメインか？）に全体力をつぎ込んだ合宿でした。 疲れました！！

参加部員 （敬称略） 松崎博、比護、坂井、東海、小山田、高橋、山口、松崎洋子、
渡辺昌子、渡辺真司

<俳句部会>

第275回 7月16日(日)

兼題：夕顔 胡瓜 他当季雑詠二句

<高点句>

夕顔や綺麗に老いし友の顔 川島知子
夕焼けを独り占めして野の地藏 片平るみ

<自選一句>

挽ぎたての曲がり胡瓜や一人膳 比護喜一郎
寝ている子たたき起して月下美人 大久保泰司
遠き日の遠き思い出遠花火 橘優治
小手毬の花つつましく夕暮れる 杉本達夫
今日だけは友と青春水中花 三浦洋子
夕顔やロマンの好きな我が居て 馬場清彦
いささかの疲れとぶごと橋涼み 横田慧子

第276回 8月20日(日)

兼題：盆用意 枝豆 他当季雑詠二句

<高点句>

母在れば卒寿なりしか盆支度 片平るみ
枝豆を食うや巨人がまた負ける 大久保泰司

<自選一句>

田の畦に実る枝豆堰の音 杉本達夫
すじ雲や花野の果てのハヶ岳 三浦洋子
大文字二十歳の迷いの炎(ほむら)かな 横田慧子
亡き父母如何におわすと盆支度 橘優治
新仏一家総出の盆用意 川島知子
青空に枝豆差し上ぐ畑の子 比護喜一郎
盆用意胡瓜で作るキックボード 馬場清彦

片平るみ 記

<ウォーキング部会>

◎雨に祟られ続けた高山不動・関八州見晴台ウォーキングの恨み節

かの地のウォーキングを最初に企画したのは令和1年10月であったが、直前に日本列島を襲った集中豪雨の為に登山道が閉鎖となり中止を余儀なくされた。登山道が回復した令和4年5月に再度企画したが雨で中止。翌年の今年5月8日に三度目の正直を目指したものの、直前までの好天続きが嘘のように急変し、又も夢叶わずに涙を飲んだ。ここに至り「この地のウォーキングは許さないと天のご意志」と悟り、以

後の企画断念を決めたが、4月末に行った下見で、急登に喘いだ後に満開の山躑躅に迎えられた感激を伝えることなく、ひっそりと仕舞い込むのは惜しいと思った次第である。

駅舎以外に何もない西武秩父線西吾野駅から満開の桐の花に迎えられて出発、線路と溪流に沿った道路を歩き始める。途中にある高山不動の道標はやり過ごし、1km歩いた辺りで右折し、左右に溪流を見ながら緩やかなアスファルトの上り坂を進む。徐々に周囲の杉林が道を覆うように迫ってきて、森閑とした空気の漂いを感じてくると、右大滝という道標が目に入る。狭くて急な林間の山道に喘ぎ始め休みたいと思う頃には、2.2km、標高差200mを稼いで大滝に到着。落差25m、白滝、不動滝と合わせて不動三滝と言われる中で最も見応えがある落水である。大滝から、来た道を少し戻り、再び山道を登り、山腹を巻くこと40分。高さ20m程の屏風状に広がった岩場で、下部に洞窟状の窪みがある大岩の下に出る。水量は殆ど無いが、現在も高山不動の修行の場になっているという不動滝は、修行の厳しさを窺わせて、日差しも届かない陰鬱な雰囲気包まれていた。一旦分岐点に戻って山道を更に進み、急峻な一画を突き詰めた先に小さな白滝があった。

ここから、1kmの距離で標高差150mを登る急登を休み休み登り、漸く高山不動に到着し一息つくことが出来た。656年創建と伝えられ、行基作という国指定重要文化財の軍荼利（ぐんだり）明王を祀る奥武蔵きっての古刹であり、境内には子育てイチョウとして信仰を集める天然記念物、樹齢1000年、高さ36mの大公孫樹が鎮座している。

最後の力を振り絞って、更に1.3km先、標高差180mを登って、標高771mの関八州見晴台に至る。途中の山道では、山躑躅が花のトンネルとなっている場所も含めて、満開の山躑躅が登山者を歓迎してくれていた。見晴台そのものは、樹が生い茂っており、昔のパンフレットに見る360度のパノラマは望むべくもなかったが、展望されるとする景色を描いた案内版が四方に置かれており、見えないながらも想像を掻き立ててくれた。

帰路では、西吾野駅まで標高差500mを一気に下る、登りとは別物の陰しさを体験した。

登山の最中は登るのに必死で気持ちに余裕が乏しいが、頂上近くの山躑躅に迎えられて初めて、「春山淡冶（たんや）にして笑うが如く」の漢詩の心を体得した気がした。

「余生とは歩くことらし山笑う（清水基吉）」という句が、妙に身近に感じられる今日この頃であり「山笑うふるとびとの誰彼に（楠本憲吉）」という場所に住んでいることを想像している。

部会長 東海 俊孝 記

◎（第91回 R5.7.10）ウォーキング：古代蓮の里（行田市）

東久留米駅から、西武線、武蔵野線、京浜東北線を経由して、高崎線に乗って所要1時間半、午前中に開花し午後には蕾に戻ってしまうというハスの花を見逃さないように、壮年期を忘れられぬ元気な13名（男8、女5）が打ち揃って、行田駅に降り立った。隣接する熊谷市が37.8℃を記録したという猛暑報道の中、気候が良ければ約8kmのウォーキングとなるところだが、降り注ぐ真夏の日光にもめげない観光客で満員な観光拠点循環バスに乗り込み、古代蓮の里を目指した。

行田蓮（古代蓮）は、「古代蓮の里」近くの公共施設工事の際、掘削池でハスが自然開花したものである。タネのあった地層の測定から、約1400～3000年前のものと推定され、行田蓮と呼ばれるようになった。その後、公園整備が進み、「古代蓮の里」として1995年に開園した。古代蓮は、一般的には「大賀ハス」*が有名であるが、（*昭和26年に千葉市にある東京大学検見川厚生農場落合遺跡で発掘された、今から2000年以上前の古代のハスの実から発芽・開花したハス）、行田蓮とは直接の関係はない。

公園内には古代ハス池や水生植物園、水鳥の池とハスが咲く池が複数あり、我々もそれぞれでハスの花を満喫してから、一画にある日陰のベンチで弁当をつかった。「開花のピークとなる7月半ば前後は、まさに花の中にいると極楽浄土の佇まいを感じることができるかもしれません。」との説明が、信仰心に乏しい身にも、現実味を帯びて感じられた。

仏教でよく蓮の花が出てくるのは、阿彌陀經に、極樂には蓮の花が咲いていると説かれるからだそうです。なぜ蓮の花なのかと言うと、蓮の花の五つの特徴（蓮華の五徳）が正しい信心の特徴に合っているからだという。生きているときに正しい信心を得た人は、極樂の蓮の台（うてな）に忽然と生まれ

ると説かれているそうだ。僧正遍照は、「世間の法に染まざること蓮華の水に在るが如し」（法華經）を引用して、蓮の花を古今集で詠んでいる。

「蓮葉（はちすば）の にごりに染（し）まぬ心もて なにかは露を玉とあざむく」（僧正遍照）

筆者はハスの花の素晴らしさを表現する力に乏しく、母校大先輩の歌に頼りたい。

「いまは早や こぼれむとする くれなゐの 蓮の花あはれ くもり日のもとに」（牧水）

ハスに関わる蘊蓄を二つ。1）ハスは咲く際にポンという音がするという俗説：この関係者の方々も音になるかどうか、早朝の開花前から聞き耳を立てて確認したそうですが、未だに誰一人聞いた人はいないそうです。やはり俗説だろうということのようです。2）ハスのタネは相当に硬いそうです：その硬さが千年以上もの時を経ても発芽する要素なのかもしれません。ここでの古代蓮の復活も、工事の際に偶然に種子に傷がつき、深い眠りからの覚醒、そして発芽に繋がったのではないかと、言われています。

ハスに関する資料の解説がある古代蓮会館には50メートルタワーがあり、ここに登って、田圃（たんぼ）アートを見下ろした眺めが素晴らしかった。

今年のたんぼアートは、映画『翔んで埼玉 Part II』の2023年全国公開を記念し、映画の主要キャラクターとコラボレーションしたデザインとなっていた。絵柄はGACKTさん演じる「麻実麗（あさみれい）」の左側。二階堂ふみさん演じる「壇ノ浦百美（だんのうらもみ）」が右側。この2人が田圃の中に浮き上がって迫って来たのが圧巻であった。6月には、このアート作成の為に、公募ボランティアなど総勢535名が田植えを行ったということである。

帰路は湘南新宿ラインで一挙に池袋に出て、打ち上げをした。

部会長 東海 俊孝 記



古代蓮の里



田圃アート

<ソフトボール部会>

「野球音痴」

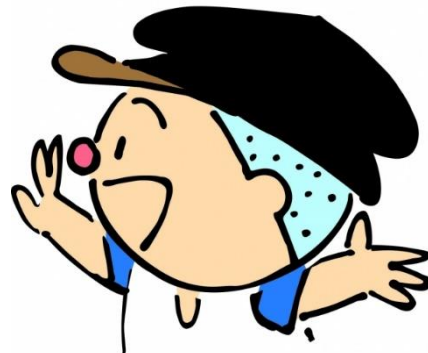
小学4年生の頃だったか、父と庭でキャッチボールをした記憶はあるのだけど……。どういうわけか、その後まったく野球に興味がなく、中学、高校、大学と野球とは無縁で過ごした。夏には高校野球の話で盛り上がる仲間の輪に入れず、プロ野球の話題にも長嶋、王の名前くらいしか知らずついて行けなかった。早慶戦に行ったのも2回ほど。試合を見るより応援を楽しんだという記憶しかない。社会人になってからも、営業現場で野球好きのお得意先が多いことから、前日のプロ野球結果くらいは新聞でしっかり掴んでおくと先輩から言われたが、全く興味がなく覚えられなかった。むしろ女房の方が、中高生頃のアサヒ雑誌が「ベースボールマガジン」だったとのことで、選手やルールに詳しかった。

野球に限らず、球を使うスポーツはおおむねダメ。卓球、テニス、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、どれもヘタクソで遊んですらもらえなかった。そんなわけで必修だった大学の体育実技は、1年時「体操競技」、2年時「トランポリン」を選択し、球無しでなんとか単位を取った。セーリングは家が海の近くだったという事もあり唯一身に付いたスポーツであるが、これもボールとは

無縁。

そんな“野球音痴”の私が、ソフトボール部会に参加したのは、渡辺部会長の熱心なお誘いを受けたから。渡辺さんが「いろいろスポーツ」と称し、スポーツ系の部会設立を目指して、あれこれ模索しているとき、「キャッチボールをするから来ないか？」と誘われたのが最初であった。小学生以来のキャッチボールであったが、やってみれば楽しいもので、それ以来「ソフトボール部会」へと昇格してからも続けている。華麗なフィールドワークとは真逆のヘッピー腰捕球、情けない投球フォーム、バットに振り回されている打撃フォームはヘタ丸出しで、後逸、トンネル、空振りは当たり前。良く恥ずかしげもなくやっていると女房に呆れられる。でも、たまたま振ったバットの真芯にボールが当たり、会心の打撃が出来た時の爽快感は何事にも代えがたい。ヘタクソでもそれなりに楽しめているし、運動不足の解消にもなっている。8月は2回とも猛暑のために練習中止。残念だけど確かに熱中症は怖いので賢明な判断。秋にはユニフォームが出来上がるとのことで楽しみだ。

小山田 朋樹 記



<カラオケ部会>

8月1日、驟雨が通り過ぎてやや涼しさが感じられる日暮れ時、久しぶりに16名の歌侍がホームグラウンドのオンチッチに集結し、お互い旧交を温めあう光景がそこここに展開されました。

まず、部会長から、簡単な挨拶の後、自身米寿を卒業し、是非バトンを引き継いでほしい旨要望があり、予ねて前会長に相談した経過も踏まえ、高橋さんから、後任部会長に後藤秀作さんを推薦され、満場一致でこれを承認、次回からその任に就かれることとなりました。新旧部会長挨拶の後、この3年半の間に旅立たれた岡野幸子、大島勝典、村野建彦部会員各氏に黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。なお、今回新入会員として初参加された青木規宜氏が紹介されました。



3年半ぶりに集う元気な歌侍たち

本番に入り、杯を挙げた後、とり決めた順に沿って、歌侍それぞれ「十八番」を3曲ずつオンステージでご披露に及び、懐かしのメロディ、ポップス調な曲、ド演歌、シャンソン、新たなメロディなど多彩な曲目が、繰り広げられ、飲むほどに酔うほどに、それぞれ日頃鍛えし名調子にエンジンがかかり、ヤジと拍手が飛び交い、いつ果てるとも知れない歓声が会場いっぱいに広がりました、夏の夜が徐々に深まるなか、画面に「早稲田大学校歌」の文字が浮かび、渡辺さんのタクトで、お互い肩を組みながら、声高らかに「都の西北」を熱唱し、エールの交換が行われ、一同心も体もすっきりした気分になり、またの再開を約し、三々五々夜空に瞬く星を仰ぎながら帰途につきました。なお、まだお名残惜しい面々数名は、深夜に及ぶまで残業に勤しみ、時計の針が12時を回る頃、漸く重い腰をあげ、ホームグラウンドを後にしました。

当日の参加者(敬称略、歌の順)と曲目

- | | | | |
|----------|-------------|------------|-------------|
| 1. 帆船信美 | ①銀座九丁目は水の上 | ②宗右衛門町ブルース | ③雪列車 |
| 2. 安次峰暁 | ①並木の雨 | ②裏町人生 | ③ふるさとの話をしよう |
| 3. 高橋 哲男 | ①時の流れに身をまかせ | ②乱れ髪 | ③群青 |
| 4. 青木 規宜 | ①三都物語 | ②東京 | ③竹とんぼ |

-
- | | |
|-----------|------------------------------|
| 5. 長束 輝夫 | ①人生の扉 ②糸 ③青葉城恋歌 |
| 6. 中村 敏明 | ①包み込むように ②銀の竜の背に乗って ③トイレの神様 |
| 7. 小山田朋樹 | ①千曲川 ②いつまでもいつまでも ③思い出の渚 |
| 8. 山口 謙二 | ①ふり向かないで ②城ヶ崎ブルース ③東京で一番淋しい女 |
| 9. 東海 俊孝 | ①人生劇場(アカベラ) ②踊子 ③柿の木坂の家 |
| 10. 橘 優治 | ①二人でお酒を ②ラブイズオーバー ③旅の終わりに |
| 11. 後藤 秀作 | ①はぐれ草 ②スローなズギにしてくれ ③for you |
| 12. 渡辺 真司 | ①心の旅路 ②港町涙町別れ町 ③ネオン川 |
| 13. 井坂 宏 | ①百万本のバラ ②リンゴ追分 ③サン・トワ・マミー |
| 14. 馬場 清彦 | ①しのぶ ②酔いどれ ③望郷酒場 |
| 15. 平山 正経 | ①銀座の雀 ②かもめの街 ③紅い花 |
| 16. 高柳 康夫 | ①奥入瀬 ②千年の古都 ③涙をふいて |

高柳 康夫 記

<グルメ部会>

8月23日水曜日、ひばりが丘北口。季粋。にて開催致しました。参加希望は19名で有りましたが青木規宣さんの奥様と片平るみさんご夫婦が突然の発熱の為、欠席となり16名での開催となりました。私の財布の消失というハプニング等が有りましたが、レデース懷石の料理を最後のマンゴー水菓子まで美味しく頂きました。二次会は9名の参加で磯丸水産に移り網焼きの先付けと共に生ビール、ホッピー、燗酒、ハイボール等で談笑し3時間余りも飲続けました。三次会は7名の参加で夜カラオケ名店、桜、でサッポロビール赤の大瓶で盛り上がり9時頃のお開き解散となりました。次回のグルメ部会は2月頃、浅草か横浜中華街での開催を予定しております。奮っての参加をお待ちしております。

吉田 清郎 記

【今後の予定】

<ウォーキング & 山歩き部会>

9月19日(火) 向島百花園(萩まつり) 東久留米駅集合8:50

10月24日(火) 子の権現、竹寺 ← 従来予定と期日変更 *雨天中止

★実施詳細はメールでお知らせします。参加実績のない方はメールアドレスの登録がありませんので、参加ご希望の方は以下宛に、eメールのメールアドレスをご連絡下さい。(FAX 番号 or SMS 電話番号も対応可)

宛先: toshi-tokai@kvj.biglobe.ne.jp 携帯 080-1205-9494 Fax:042-473-8566

部会長 東海 俊孝 記

<スポーツ観戦部会>

野球(早慶戦)

10月28日(土)を計画しています。現時点でのチケットの販売方法は未発表ですが、おおそ春シーズンと同じと予想します。別添チラシをご覧の上、「山口謙二」までご連絡ください。

ラグビー（帝京、慶応、明治戦）

「ラグビー」観戦希望申込先：小野泰右（TEL090-7251-0648 メール t_ono_1120@yahoo.co.jp）

申し込み期限 9月13日（期限厳守）

11月5日（日） 帝京戦 秩父宮 メイン指定3,000円 バック指定3,000円 自由席2,000円

11月23日（木） 慶応 国立 カテゴリー1指定6,000円 カテゴリー2指定5,000円

カテゴリー3自由3,000円 12月3日（日） 明治 国立
カテゴリー1指定6,000円 カテゴリー2指定5,000円

カテゴリー3自由3,000円

※早慶戦は、大正11年から数え100回目となる定期戦を記念し、国立競技場での開催になります。両校ラグビー部と協会は節目の大会を盛り上げるべく準備を進めています。

<書道部>

第12回作品展 11月17日（金）～19日（日） スペース105

東稲広報室

◎訃報

服部 雄吉氏 2022年10月6日 逝去

山崎 敬雄氏 2023年8月28日 逝去

栄田 卓弘氏 2023年8月29日 逝去

謹んでお悔やみ申し上げます。

◎新入会員情報（9/1時点）

大塚 輝人氏 平成5年 理工卒

◎コントラクトブリッジの集い 代表 金子

9月15日（金）15:50-18:50 生涯学習センター

参加希望者は会場に直接参加しても構いません。

◎「オペラを楽しむ会」（清瀬稲門会主催）

例によってオペラ会のご案内を致します。

10月1日（日）清瀬アミューホール（清瀬駅北口徒歩1分）

13時開場、13時30分開演。入場無料ですが資料代カンパ200円。

今回の演目はお馴染み「カルメン」（ビゼー）ザルツブルク音楽祭1967年

山口 謙二 記

◎市民大学短期講座（知っておきたい日本人の盲点）

令和5年6月9日、16日、23日（金）13時～16時に当会会員國米家己三氏より、知っておきたい『日本人の盲点』についての市民大学講演があり、稲門会からも4名の会員を含め20名が参加しました。三回の講演についての概要を説明します。

第1回 もろもろの「基本」軽視

國米氏の市民大学講演は4回目で一貫として一人の庶民からみた日本人の民族特性について話して

きたとのことでした。日本人は、4,250 ほどある世界の民族の中できわめて異色の民族で、美意識などすぐれた美点をいくつももっている半面、問題点も少なくありません。「基本」を見る目が弱いのも、その一つです。

NHK のかつての人気番組「プロジェクト X—挑戦者たち」の中島みゆき作詞・作曲の主題歌「地上の星」は、すぐそばにいるスター（星）に気づかず、「各立たるもの、輝くもの」ばかり追って、結局「氷ばかり掴む」と歌っています。

国家の存立基盤にかかわる国防、教育、外交を争点とした国政選挙はめったになく、教育業界でも、その目的が「自立と自律」にあることが忘れられ、日教組は労働組合として教師の働く条件改善に努めることを怠って政治に走り、今日「ブラック職場」といわれる教師不足に悩む教育業界を招きました。

また、日本民族の原点である縄文時代を尊重せず、古くからずっと「土蜘蛛史観」が跋扈してきました。したがって縄文人の土器開発が、産業革命に匹敵する画期の十器革命にあることを気づいていません。

第2回 「基本」が死角になって漂流

この回は、日本人が「戦略」「ビジョン」が基本であることを気づいていないことを協調、まず、台湾有事が次第に現実味を帯びてきましたが、民族性からみた中国民族は、きわめて問題の多い人たちで、信用できないことに思いをいたし、世界でも、最も中国の本質を知る立場にある日本は、もっともっと欧米に対しわれわれの知見を率直に披露すべきとしました。

また日本有事の際、すぐにも問題となる食料自給率は、日本 38~40%。米国 130%、仏 100%、独 90%をみてもいかに国の備えが貧弱かが明らかです。飼料自給率も同様です。

以下、基本軽視のケースを列举

竹下登首相は、元特攻隊教官で地方の面倒見のよかったのはいいにしても、約 3,000 の自治体へ 1 億円ずつの交付は、国家財政無視の配布でした。また小泉内閣は国民を考慮せず法曹界人 5 万人計画を打ち出し、法科大学院を多数つくりましたが失敗しました。そのほか綱領のない政党が出現したり、「現場を知ったら予算を組めない」と放言する財務官僚がいたり。

「わらわれに歴史はない。これから始まるのだ」とのたまう明治政府の高官らは、城郭を切り捨て、漢方医学を否定しました。現代でも日本人の特性にマッチしている半導体生産で日米摩擦を機に戦意を喪失する一方、洋上風力、地熱、森林など自然環境でことのほか恵まれた産業において欧米の後塵を拝する状況に甘んじています。

中曽根康弘元首相は、「国際情報は各省に報告されるだけで、総理官邸を中心とした中枢システムがない」と憂えました。小泉内閣を経て、やっと安倍内閣に国家安全保障局が設置されました。

総じて、この国では戦略やビジョンは後からついてくるものと考えer傾向があります。しかし、これは根本的な間違いではないでしょうか。

第三回 「基本」軽視はどこからくるのか

東京オリンピック・パラリンピックではビジョンをもつことができませんでした。日本人にとってマクロ的思考は、とにかく苦手。それは、長い鎖国が続き、そのごの明治政府による「西欧に伍する」政策推進などで固有の伝統文化を犠牲にしたことに加え、リベラル思考に枷（かせ）をかけてことによります。が、根源的には日本人の視野狭窄に基づくものと考えられます。

國米氏は、独特の「唯食論」の視点から民族性を分析、日本民族は「草食性」が濃厚の後だとしています。また「民族性の木」の図で日本人の 16 項目にのぼる特性のイメージ関係を示しました。その木は草食文化を根とし、自然観、美意識、清浄の 3 項を核層に位置づけ、職人性、精微志向、多様性、組織性、独創力、鮮度追求を「正の特性」受動性・甘え・危機管理・低発言・視野狭窄・同調同化・不決断といった「負の特性」を並べています。

また、日本人は「一期一会」「一世一代」「一挙一動」など、「一の字」が大好きです。これは“一の美学”ともいうべきもので、目の前だけにこだわり、そこにすべてを集中することをよしとする日本人の習性の反映とみることができます。

この講座で、國米氏の博学な知識にもとづきました講演により、「日本人の盲点」及び弱さを自分なりにわずかながら理解できたと思います。思いすぎかもしれませんが、國米氏は、日本人の民族性を分析の中で、日本人を応援しています。自然観、美意識、清浄の3項を核層のもと「正の特性」を拡大して「負の特性」を改善すれば、日本人は強くなる期待ができる民族と思います。

尚、「日本民族性の木」につきましては、配布いただきました貴書・文芸社出版『日本人は「日本人」を知らない』により理解できると思います。ご希望があれば貸与いたします。

高橋 哲男 記

◎お詫びと訂正

東稲ニュース 130 号にて、各人に割り当てられた稲門祭の福引券番号をお知らせいたしましたが、二名の方の福引番号が記載もれとなっていましたので、お詫びして改めて掲載いたします。

中村敏明 07466, 07467 長瀬邦子 07465

<会員リレーエッセイ> 噴水広場

芸は身を助く

S54 年 教育卒 大塚 和恵

中学・高校とバレー部に所属し来る日も来る日もバレーに明け暮れていたが、大学に入ると興味があちこちに向いて、山岳アルコウ会という登山&スキーのサークルと、英文速記研究会と言うその名の通り英文を速記で書けるようになるというサークルに所属し、忙しい日々ではあるがそれなりに楽しい大学生活を送った。そこそこ勉強もして思い出や友人はたくさん出来たものの、誇れるほどの事は何も成し遂げて来なかったと思う。さらに日本航空に入ってから、ゴルフやテニス、スキー、スケートに加え、水上スキー、トレッキング等色々かじり、海外に行くのが仕事であった上に、航空会社社員の特典を利用しての旅行にも出かけ、色々経験だけは増えていったが、やはりこれだけは誇れる！と言うものはなかった。

なんとなくその場その場をそつなくこなし、自分自身で成し遂げたと言うことは皆無と思っていたが、人生で一身に打ち込んだものが一つだけある！と最近気がついた。それは大学受験に向けた受験勉強である。埼玉の県立高校に通っていて、夏までは部活、その後も体育祭や文化祭の準備等で実際に受験を見据えての勉強は10月も半ばになった頃スタートとなったが、目標は早稲田の教育学部英語英文学科だ。目から血が出たことはなかったが、血が出ちゃうのではないかと思うほど勉強した。元々英語は好きだったこともあり、海外への憧れもあり航空会社に入ることを前提に学部選びをしていたのだが、実はこの4ヶ月間の猛勉強が私の人生で大いに役にたってくれたのだ。大学時代、星新蔵先生のゼミは面白く卒論に選んだ比較文化に関しては多少は覚えているものの、今となっては英米文学・英語学・英会話等、お恥ずかしながら、ほぼ何も覚えていない。入社試験はきっと大学の時の勉強が役立ったのだと思うが・・・

その後、結婚し自営業を営みながら子育てをし、子育ても一段落の頃に地元で塾講師の募集を見て応募を決めた。無事採用となったが文法の勉強は数十年ぶりで最初は戸惑った。関係代名詞？現在完了？分詞構文？仮定法？う～ん、遙か昔にやった気はするが・・・と記憶をたどりつつ、子供たちに教えるために自分もきちんと復習しなくてはと始めたところ・・・スルスルと記憶が戻って来た。受験勉強

強でやった英単語もスルスル出てくるではないか！あの4ヶ月間にやったものは頭の長期記憶の引き出しにしまわれていたのだ！（日本史や国語もやったはずだが、こちらは多分中学生くらいの知識としてしか残っていない）

塾講師を皮切りに、家庭教師を頼まれたり、中学受験を終えた新中一に英語入門講座を行う等、英語が身を助けてくれている。まさに「芸は身を助く」だ。英語は芸ではないがこの際関係ない。本当にありがたいことである。ただ残念なことに「この単語知らないな～」と辞書を引き納得しても、又同じ単語でつまづき、本当に中々覚えられない。つまり短期記憶は衰えているということなのだろう。これは努力で何とかなるものだろうか・・・と訝りながらも、ボケ防止も兼ねて時事英語を読み、知らない単語（と思っているだけでただ忘れていただけのことが多い）に出くわしたら何とか頑張って覚え、頭の引き出しにしまってあった折角の知識が錆びつかないように切磋琢磨していこうと思っている今日この頃である。



◎編集後記

野球の始球式で打者が空振りすることに疑問を感じた人はいないだろうか？そこで少し調べて見ると、早稲田大学が関係していたことがわかった。以下その詳細を述べる。

野球の試合の開始前、主催者や来賓の代表が一球を投じる「始球式」が日本で始まったのは、1908年（明治41年）、米国の大リーグ選抜チームと早稲田大学野球部による親善試合が最初だったと言われている。

その試合で始球式を行ったのは、早稲田大学創始者の大隈重信。だが、右足が義足だった大隈が投げた一球は、ストライクコースから大きくそれた。そのとき、バッターボックスにいた早稲田大学の打者は、「ボールにしてはいけない」と、敢えて空振りをして大隈に敬意を払ったという。この出来事をきっかけに、日本の始球式では打者が空振りすることが慣習となったそうである。 有賀 千歳 記

編集委員：有賀 千歳（今回の担当）、片平 るみ



東久留米稲門会HPへのアクセスは、
左記QRコードからできます。